

シリーズ

いろいろな和尚さん



脱室菌和尚 さんの巻



里山に、とくを持った硝酸性窒素がいました。

とくは村のみんなを弱らせるので、硝酸性窒素は嫌われていました。

そんな嫌われ者の硝酸性窒素でしたが、

いつかはみんなと仲良くなりたいと考えていました。



とくは、近頃はみんなを弱らせるのをとやめよう

と、牛の糞の中でじっとして、毎日を過ごしていました。

そんなある日、脱空和尚さんが村を通りかかりました。
脱空和尚さんは、困った人たちを助ける旅の途中でした。



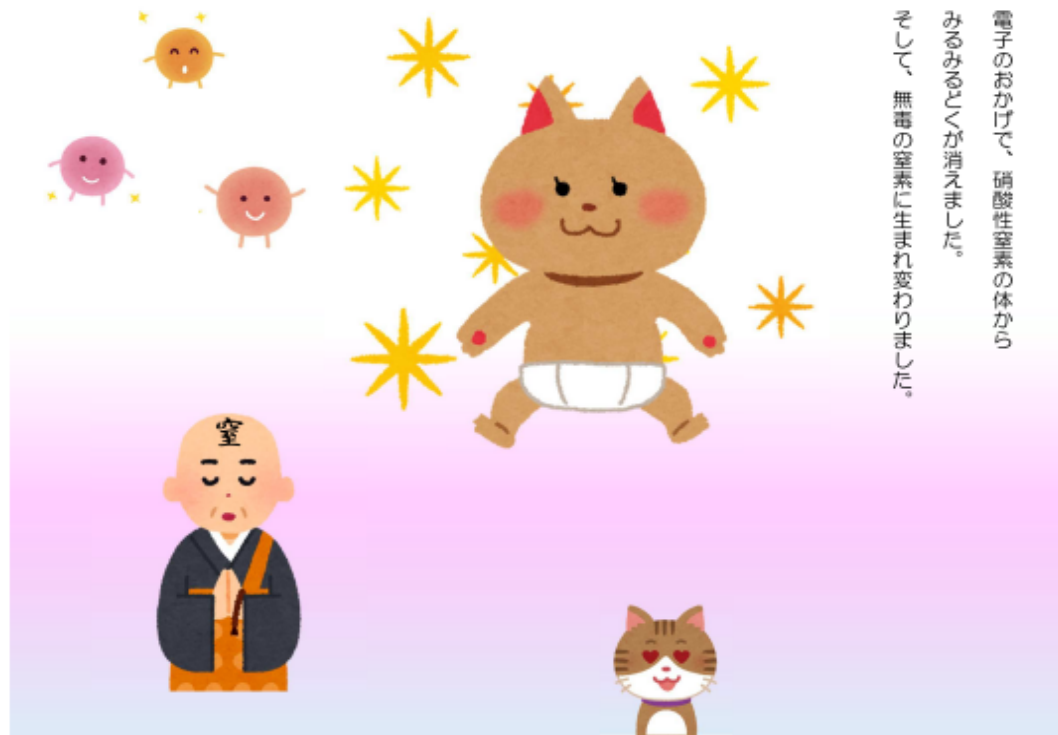
硝酸性窒素は、脱空和尚さんに、
「みんなと仲良くなりたいです。オラを助けてくれませんか」と必死に頼み込みました。

脱窒菌和尚さんは、何とかして硝酸性窒素を
助けてやりたいと考えました。

そこで、昔から何にでも効くと言われている、
腐植物質を硝酸性窒素に振りまきました。



すると、粉の中からたくさんの電子があらわれて、
あつという間に硝酸性窒素を包み込みました。



電子のおかげで、硝酸性窒素の体から

みるみるどくが消えました。

そして、無毒の窒素に生まれ変わりました。

無毒な罂粟は、みんなを弱らせない
自分の姿が大いに気に入りました。



そして、村のみんなと仲良く暮らしました。
めでたし、めでたし。



おしまい